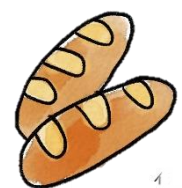


5月新着おすすめ本



『パン語辞典 パンにまつわることばをイラストと豆知識でおいしく読み解く』

ぱんとたまねぎ 著 (誠文堂新光社)



596. 63

PA

食べるだけの「パン」だけではなく、見たり聞いたり学んだり、時には個人的見解を交えながら、多方面から「パン」について分析。歴史、種類からおいしいお店、京都とパンの関係、パンのおともなどなど、パンにまつわるあらゆる言葉(パン語・パンワード)を辞典形式にまとめ収録しました。パンに関わる人物図鑑、パンマンガも収録。

(Amazon.co.jp より)

『47 都道府県ビジュアル文化百科 伝統行事』

神崎 宣武 監修 (丸善出版)



386. 1

DE



福井県の「勝山左義長まつり」や「若狭のお水送り」が紹介されています。



『なぜ日本の「ご飯」は美味しいのか』

~韓国人による日韓比較論~

シンシアリー 著 (新潮社)



302. 21

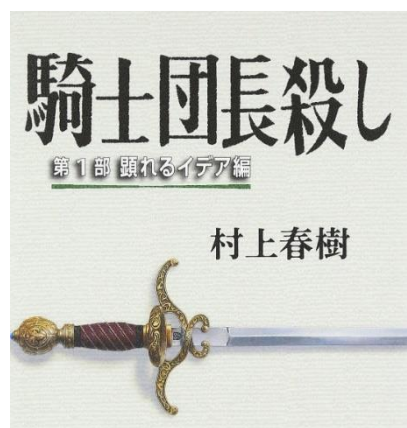
SI

空港、電車、商店街、ホテル、サブカルチャー、コンビニ…日本と韓国ではこうも違うのか!!日本をこのうえなく憎みながらも、このうえなく憧れている「不思議の国」で生まれ育った著者だからこそ見える日本の美しさ。

(「BOOK」データベースより)

日本各地には古来から伝統的に続く行事が様々ある。とはいえ過疎化や都市化によって行事が途絶えてしまった地域も多い。近年、外国人観光客は年々増加の一途にあり、各地の年中行事や風習、伝統文化を体験するべく有名観光地はもちろん、地方にまで足を延ばす外国人も多い。本書では日本各地に残る「伝統行事」を豊富な写真と地図を通じて紹介する。

(Amazon.co.jp より)



『騎士団長殺し』

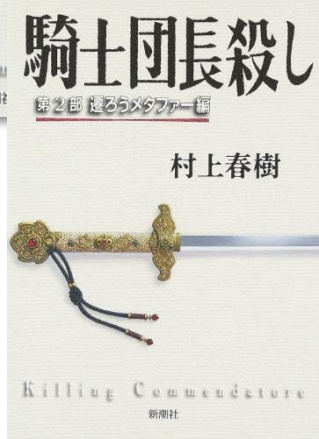
村上 春樹 著（新潮社）

『1Q84』から7年—、待ちかねた書き下ろし本格長編。その年の五月から翌年の初めにかけて、私は狭い谷間の入り口近くの、山の上に住んでいた。夏には谷の奥の方でひっきりなしに雨が降ったが、谷の外側はだいたい晴れていた……それは孤独で静謐な日々であるはずだった。騎士団長が顕（あらわ）れるまでは。

(Amazon.co.jpより)

913.6

MU



913.6

KA

『坂の途中の家』

角田光代 著（朝日新聞出版）

刑事裁判の補充裁判員になった里沙子は、子どもを殺した母親をめぐる証言にふれるうち、いつしか彼女の境遇にみずからを重ねていくのだった—。社会を震撼させた乳幼児の虐待死事件と“家族”であることの心と闇に迫る心理サスペンス。

(「BOOK」データベースより)

『i(アイ)』

西 加奈子 著（ポプラ社）

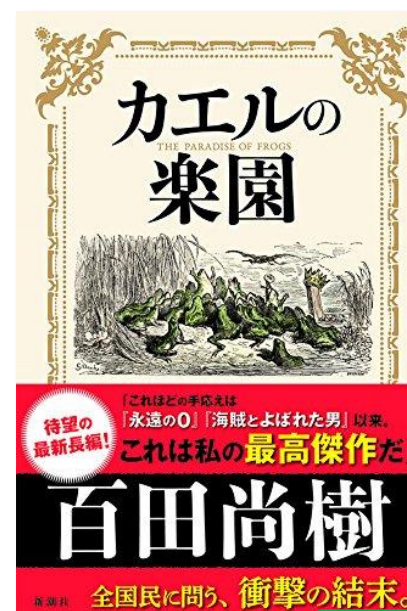
「この世界にアイは存在しません。」入学式の翌日、数学教師は言った。ひとりだけ、え、と声を出した。ワイルド曾田アイ。その言葉は、アイに衝撃を与え、彼女の胸に居座り続けることになる。ある「奇跡」が起こるまでは—。「想うこと」で生まれる圧倒的な強さと優しさ—直木賞作家・西加奈子の渾身の「叫び」に心揺さぶられる傑作長編！

(「BOOK」データベースより)



913.6

NI



913.6

HI

『カエルの楽園』

百田尚樹 著（新潮社）

安住の地を求めて旅に出たアマガエルのソクラテスとロベルトは、平和で豊かな国「ナパージュ」にたどり着く。そこでは心優しいツチガエルたちが、奇妙な戒律を守り穏やかに暮らしていた。ある事件が起こるまでは—。平和とは何か。愚かなのは誰か。大衆社会の本質を衝いた、寓話的「警世の書」。

(「BOOK」データベースより)

